

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	環境開発株式会社 グループホームのぞみの家 カナリヤ館	評価実施年月日	平成21年12月 2日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月 2日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者本位の理念を作りサービスするよう心掛けている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>週1回理念を唱和し、認識しながらサービスしている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時に家族へ説明したり、地域の方が見学に来た時にもホームの考え方を説明し理解して頂いている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の方と気軽に挨拶するだけでなく、ホームで作った漬け物や餅を差し上げたり、近所の方から山菜を頂いたりしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>祭りやイベント(ランフェスタ)に出掛けたり、近郊の小学校運動会を観に行ったりしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>研修会等に積極的に出席し、安心して生活して頂けるよう情報提供したり、意見交換したりする機会を作っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>前回の外部評価結果での改善事項でもあり、今回は全職員で一つ一つを自己評価している。同時に意義を理解しながら注意すべき事等を話し合い日々のケアに活かしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では日頃のサービス状況や評価内容及び結果を報告し、出席者からも意見等を出して頂きサービス向上に役立っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>会議の時だけでなく日頃から担当者と会って話し合う、電話連絡する等の情報交換を密にしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>ミーティングで勉強する機会を設けている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>関連法については日頃のサービスの中から学ぶようにしており、職員は虐待をしない、起こさない事を念頭にサービスしている。管理者は適宜入浴等の身体的介護時に虐待が無いようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者、家族の心配事や不安な事をじっくり聞き取り、ホームでの考え方を説明し十分に理解して頂いた上で契約するようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が不安がらないよう話をしっかり聞くように心掛けており、その中で意見や不満等があれば職員に周知するだけでなく、管理者へも報告しサービスに反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月家族へは生活状況、身体状況等を記したお便りを郵送し報告している。また家族来訪時にも様子を話すようにしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族へ郵送している書類には意見、要望等を記入する書類を同封し返送して頂いている。また、来訪時にも要望等を聞くようにしており、その都度反映するようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日のミーティングや毎月のスタッフ会議で意見等を聞き反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	事前に予定され把握できている事は勤務表作成時にすでに盛り込んでおり、突発的な変化があれば職員に相談しつつ勤務表を調整している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日頃の会話から管理者や職員の悩み等を聞いたり察するようにして離職にならないよう心掛けている。職員が入れ替わった時には数週間同じベテラン職員とペアで勤務し、利用者への精神的負担を減らすようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日頃からレベルアップする意識を持つよう指導している。能力や経験に応じて研修会にも参加させ意欲向上を図っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域ケア会議やスタッフ研修会に出席し意見や情報交換をしたり、岩見沢、旭川の福祉施設を訪問し意見交換するなどで質の向上に役立てている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスを溜めないよう交代で休憩を取りながら業務している。また、不安に感じている事を話しやすいよう雰囲気作りにも心掛けている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	チームワークを保ちお互いが切磋琢磨し合える環境で働けるように努めており、資格取得者には手当を支給し、年末にも手当を支給している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	困っている事、不安な事をじっくり聞くようにし、1回の面談だけでなく幾度か訪問することで信頼関係を築くようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	困っている事、辛い事等を親身になり聞くことで精神的負担の軽減を図っている。また、1回の面談だけでなく幾度か訪問したり電話で話を聞く等で良好な関係作りを心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話の主旨及び付随する事柄を理解し、内容により関係機関へ連絡を取り、他サービス機関の提供をアドバイスするなどしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	1回の面談だけでなく幾度か訪問し馴染みの関係を作っている。また、事前にホームを見学し雰囲気を味わって頂いたり一緒に食事するなどで親近感を持ってもらう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	声掛けしながら一緒に調理や家事全般を行うようにしており、その中から信頼関係を築くよう心掛けている。また、出来る限り時間を共有し利用者の話にも共感するようになっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月郵送している書類に家族からの希望や要望を返信して頂く用紙を同封しており、その返信内容に沿ったケアをしている。家族来訪時や電話でも状況を説明し要望等を聞きながらケアしている。また、家族には行事への出席を募り、一緒に参加して楽しい時間を過ごして頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族との関係や関わり等を把握しつつ、日頃の状況を手紙や電話でお知らせするだけでなく、気軽にホームへ来訪して頂けるような環境作りをしたり、遠方の家族へは連絡を密にする等の対応をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親しくしていた方の来訪時には、いつでも気軽に来訪して頂くよう話をしている。行きつけの理容院や美容院に行ったり、ホームに散髪しに来て頂いたりしている。馴染みの店へ買い物に行ったりもしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立する利用者が出ないよう座る場所を考慮したり、全員参加でレクリエーション的な事をしたりして楽しく過ごせるよう工夫している。また、利用者同志で会話が進まない時は、会話の橋渡しをして関わり合えるようにしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院者に記念品や花を届けたりしている。家族から転移等の相談も聞き情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何を希望しているか、どうしたいのかを日々観察し、本人の意向に沿えるようケアしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で、ある程度の情報は聞き取りしている。入居後は日々の会話から把握している内容を再確認したり、家族来訪時に聞いたりしている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々人の生活リズムを把握しつつ、最近の身体状態を聞いて状況確認するだけでなく、数ヶ月前から比較してどう推移しているかも捉えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の希望を聞いたり、現状で必要と思われる事項を考慮しつつ、さらに家族からの意向も組み入れて、会議を開き検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的見直し以外に入院等により状態変化が見られた時には、家族の意向も踏まえその都度会議を開いて見直ししている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人毎のファイルがあり日誌には毎日の様子だけでなく、介護計画に挙がっている課題のケア状況も記入しており、職員は業務に入る前に日誌に目を通し情報の共有をしている。日々の状況を把握しながらそれに基づき介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護職員を配置しており、状態によっては指示を仰ぎケアしたり受診する等、医療面でのフォローが出来る。また入院しても退院に向けて医療機関との連絡調整が取れるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防の協力により避難訓練を実施したり、ボランティア(キーボードによる懐メロ演奏)の訪問により楽しい時間を過ごせたりしている。また、近郊の小学校運動会や学習発表会に招待され観に行ったりしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者が以前関わっていたケアマネと連携を取ったり、必要に応じて他のサービス機関の担当者にも連絡しながら希望が叶えられるようにしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	日頃から支援センターとは連絡を取り合っている。地域ケア会議に出席したり、ホームの運営推進会議に出席して頂いており情報提供や意見交換は出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に聞いた通院希望の病院へ受診しており、受診時には職員が付き添っている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医と相談しながら認知症専門医への受診ができるよう連携は取れている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置しており日頃の状態観察の他に、状態変化時にはどうすべきか指示を仰いでいる。また、医療機関の看護職員との連絡調整は密に取れている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には日頃の生活状況及び身体状態を記した情報提供書を病院関係者へ提供し役立てて頂いている。入院中も毎日のように病院へ行き状態を把握すると共に、関係者と早期退院に向けた情報交換や相談をしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時には、重度化した場合における対応にかかわる指針について、家族へ説明し署名して頂いている。医療連携体制加算を取っており、状態によっては家族も交えて医療機関と相談するようにしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ホームとして対応できる事を念頭に置き、家族も交えて医療機関と相談しながら利用者への対応を考えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族とも十分話し合った上で、転居予定先の関係者と連絡を取り合い、転居先の下見や事前に情報提供するなどしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者は人生の先輩である事を忘れず、見下した言葉や行動をしないよう心掛けている。記録ではプライバシー保護のため個人名を出さず「他の利用者さん」と書いている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>分かりやすい説明や返答しやすい言葉掛けをし、本人の意思を尊重して納得しながら決めて頂いている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>何事も強制せず利用者の希望を尊重し、本人のペースに合わせて充実した日々が送れるよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望している美容院や理容院に行ったり、ホームにも来て頂いたりしている。化粧等のおしゃれは利用者の望むよう支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>料理好きの利用者だけでなく、苦手な方にも上手にできた時の喜びを感じて頂けるよう声掛けし一緒に準備している。また、会話の中から好みや食べたい物を聞いたりして調理することもある。後片付けも出来る事を考慮しながら一緒にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	フロアに冷蔵庫を設置しジュースやお茶等入れてあり、いつでも好きな物を飲めるようにしている。菓子類も手に取りやすい所に置いてあり自由に食べれるようにしている。また、好みの物に満足感が得られるよう買い出しにも気を配っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握しさり気なく声掛けしている。失敗しても責めることなく温かく見守り、羞恥心を傷付けないようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて、いつでも好きな時間に入浴して頂けるようにしている。また、好みの湯温に合わせたり、歌を歌うなど楽しい雰囲気を入浴できるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝及び起床にホームとしての決まった時間はなく、本人の好きな時間に眠られている。また、室温や湿度に気を配り本人の体調に合わせて休息して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を把握し、料理、歌、塗り絵、針仕事、草花の手入れなどの趣味や得意な事を出来るよう支援している。また行事を計画し楽しい時間を過ごして頂いている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額ですが各自で持っており、必要な時に使えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望により散髪や買い物などに送迎で出掛けたり、付き添いで近場へ散歩に行ったりしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	温泉や水族館などに出掛けたり、年に数回は祭り等の家族にも参加して頂ける外出行事を計画し実行したりしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	玄関に公衆電話を設置し、いつでも電話出来るようになっており、電話が掛かってきた時はコードレス電話でゆっくり会話出来るよう配慮している。また、手紙は代読したり希望により代筆したりしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時にはゆったりと話せるような雰囲気作りをし、いつでも気軽に訪問して頂くよう話し掛けている。また、宿泊できる部屋もある。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等で拘束について話しており理解しつつケアしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵は無く玄関は夜間は鍵を掛けるが、日中は出入り自由になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はフロアでの見守り位置に気を付けながら、プライバシーに配慮しつつ動きを見守っている。また、居室で休んでいる方には適宜様子を見ている。夜間は定期的に居室を巡回している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室に果物ナイフ、電気剃刀を置いている方が居るが、何処にあるか職員は毎日把握している。また、包丁や洗剤は夜間決められた場所に置き、包丁には番号を記入し本数を把握している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒や誤薬等はマニュアルを読んだり、日頃のケアを通して職員同士話し合い理解を深めている。また、利用者が居る場所を常に把握したり、何があっても対応できるよう見守っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各対応マニュアルを読んだり、消防署から協力して頂き救命講習に参加したりしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を頂き年2回は時間を想定した避難訓練を実施し、避難方法や消火器の使用法を学んでいる。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時だけでなく状態変化に伴い、その都度電話や家族来訪時に説明している。また、日頃から抑圧感を与える言動をしないよう職員同士で気を付け合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定その他、表情や行動、声掛けした時の反応等で小さな変化に気付くようにし、いつもと違うと感じた時には、職員同士で共有しながら対応を検討し状態により管理者へすぐ報告している。日誌にも記録し申し送り時に報告漏れがないようにしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は定期薬を学習し理解してからでないと服薬支援をしていない。薬の変更時や臨時薬処方時は連絡ノートに書き全員に周知すると共に、処方箋を確認し体調変化に気を付けている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量を表に記入し把握している。食物繊維の多く含まれている物や乳製品を摂って頂く、適度に体を動かして頂くなどしている。便秘時にはヨーグルト等を摂取する、水分を多めに摂る、腹部マッサージをするなどしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後歯磨きの声掛けし見守りにて行って頂く。磨き残しがないか確認し、出来ない部分は介助している。夜間は義歯をポリドントにつけている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>バランスを考え調理しており、毎日の食事量や水分量を記入している。また、食べれない物がある方には代替品を提供する等している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>各感染症へのマニュアルがありそれに基づき対応している。手洗いやうがいを徹底し、調理器具、食器、ふきんの消毒をしている。状態により日中マスクをして頂いたり、夜間は手すりやドアノブ等消毒したりしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	定期的に冷凍庫及び冷蔵庫チェックや掃除を行い賞味期限の管理をしている。加熱を十分に調理するようしており、台所は清潔保持に努めている。夜間は食器や調理器具等の消毒を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前はスロープになっており不自由さを感じずに出入りできる。夏は入り口にプランターを置き美観に努め、冬は砂をまいて滑らないよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの掲示板には季節に合わせた手作りの物を、その他にも季節に合った花や壁掛け等を飾っている。フロアと台所は対面式で調理の音、においなどを感じて頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人がけ、二人がけ等様々なタイプのソファや食卓テーブルを配置し、和室もあるので好きな場所で過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使用していた家具や馴染みの物、本人が若い頃や家族の写真等を自由に持ち込んで頂き、落ち着いて過ごしやすい居室になるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室掃除はこまめにし換気もしている。季節、天気や気温に合わせて換気し室内の温度調節したり、湿度にも気を付け乾燥しやすい季節には、濡れタオルを干すなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>床に段差が無く、歩行の妨げになるような物を置かないよう注意している。、フロア、廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置し、安全面で配慮している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室だけでなくトイレや洗濯室等にも見やすい所に表札を付けている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>プランターに花や野菜を植え玄関前やテラスに置く、中庭に花を植える、裏の畑にも野菜を植えることで、ベランダから出入りし育つ楽しみを感じて頂いている。中庭に洗濯物を干している。また近くには東屋やベンチがあり、散歩しながら休めるようになっている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

1. 看護師を配置しており、利用者の状態により指示を仰ぎケアしたり、受診するなど医療面でのフォローができています。
2. 看取りについては家族の意向を聞き、医師と相談しながらできるだけ対応できるようにしています。
3. 祭りやイベントには家族にも出席を募り、一緒に参加して頂いている。
4. 温泉、外食等で外出する機会を多くしている。
5. 札幌、旭川等に連携する施設や病院があり、入院、入居に際し連携が取りやすい。
6. ホームを退去しても記念品を届けたりし関わりを継続している。